

## 化学品事業

改革に取り組んで2年、収益の安定化に向けて、さらなる改革のスピードアップを推進します。



化学品事業本部長  
福島良昭  
取締役常務執行役員

### 厳しい市場状況の中、改革を着実に推進

アグロ事業は減農薬、無農薬の流れが続き、農薬使用量は漸減しています。色材事業では染色加工の海外移転の流れは収まらず、国内市場の縮小が続いています。また火薬事業では公共事業の抑制策が続いており、市場は一層小さくなっています。これらに加え最近、原油の高騰に起因した原料高による利益の圧迫、中国元の高止まりによる輸入価格の値上がりなどの新たな問題も出てきております。こうした中で当事業本部は改革による事業構造の変革を通して生き残りを図っていかうとしています。その基本的な戦略は事業運営を市場の変化に合わせて変えていくことにあると考えています。具体的に言えばアグロでは新原体、新製剤の導入と国内市場の開拓、色材では中国市場、世界市場への進出、火薬ではシェアアップと応用新製品の開発による業容拡大などがキーになると考え、その実行にまい進してきました。改革に取り組んで2年が過ぎ、改革の歩みは確実なものとなりつつありますが、さらに改革のスピードを上げ変革を確実なものとしていかなければなりません。

### アグロ事業は過去の負債を清算し、今後は新製品をタイムリーに上市

2006年5月期のアグロ事業は、売上げ、利益とも前年に比べ大幅な減少となり、数値的に大きく悪化しました。しかしこのような結果を招いた主因は過去の負債の清算にあり、ようやく真の意味での改革の原点に立つことができました。今後は、この事業の最大の課題である新製品のタイムリーな上市に向けて、自社開発新製品の開発スピードアップとともに、剤の買収、M&Aなどにも果敢に挑戦していきます。2007年5月期は、生物農薬1品と防疫剤1品の2品目の新製品上市を予定しています。さらに、国内販売を拡大強化し利益構造を改善し、これを維持、定着させることを優先課題として取り組んでいきます。

### 色材事業は増収増益、今後は中国事業のインフラ整備に注力

色材事業は注力してきた中国事業が大きな進展を見たこと、国内市場が堅調に推移したこと、コストダウンの効果などもあって久しぶりに増収増益を達成しました。中国の子会社の無錫先進化学化工有限公司（WAC）、招遠先進化工有限公司（ZAC）は生産数量、販売額とも年々拡大を続けています。今後は中国事業の拡大テンポを

さらに加速させていきます。中国販売は年々50%以上伸び、ようやく10億を狙えるところまで来ています。これを機に色材の中国事業を収益の中心にすえた新しい色材事業展開のマスタープラン作成を急ぎ、これを達成しなければなりません。そのためのインフラ整備を急いでいきます。

## 火薬事業は大幅な利益増、今後は新製品によるシェアアップに注力

火薬事業についてはコスト競争力をつけることと差別化商品を開発することの2点を最優先事項として取り組んできました。コストダウンについては原材料の見直し、製法変更等の検討に地道に取り組み、目標を達成しました。また世界初の粒状エマルジョン爆薬（ランデックス）を開発してきた開発部門は、その現場での使用方法や応用に取り組み、安全で安価な発破方法を開発でき、本格的な販売が成功しつつある段階までできました。このような変革の努力の結果、販売は微減となりましたが利益は大幅に増加しました。今後は、新製品ランデックスによるシェアアップと、今まで培ってきた技術を使った新規応用製品の開発に注力していきます。

## 事業領域

### ■アグロ事業

農薬などの製造・販売を行っています。

#### 主要製品

- ダイアジノン
- マトリック
- サフロチン
- エビセクト
- シクロサルル
- MCPB
- クロールピクリン
- ククメリス
- ラットデン
- シメトリン
- クロピクフロー



### ■色材事業

繊維用染料、紙用染料などを製造・販売しています。

#### 主要製品

- カヤロンポリエステル
- カヤクリルED
- カヤセロンリアクト
- カヤラス
- カヤシオン
- カヤフェクト
- カヤホールリキッド
- カヤセット



## トピックス

### 鹿島工場内に新研究棟を建設 製品の開発スピードアップにつなげる

2006年5月、日本化薬は茨城県の鹿島工場内に、農薬を中心とするアグロ事業の新研究棟を建設し、研究開発部門と製造部門の一体化を図りました。厳しさを増す農薬業界で収益向上を実現するため、今後は、アグロ事業の軸足を、農薬原体の開発から、自社保有の原体を徹底的に活用し、製剤の改良や開発にシフトしていきます。研究開発部門と製造部門の連携強化は、製品の開発速度をあげるためにも重要であり、また薬効試験を行うにも工場に近い方がメリットも多いと考えられます。

### 中国のグループ会社「無錫先進化薬化工有限公司」で 繊維用合成染料の生産能力を強化

日本化薬は、日本の合成染料業界で先陣を切って中国に進出、1995年には山東省招遠市、1996年には江蘇省無錫市に合弁会社を設立しました。山東省の「招遠先進化薬有限公司」は、日本化薬の出資比率75%で、製紙向けの用途を中心とした蛍光染料を生産しています。また、江蘇省の「無錫先進化薬化工有限公司（WAC）」は、同出資比率80%で、繊維用の分散染料と水溶性染料の製造販売を手がけています。

WACは、年間1800トンの生産能力を持ちますが、生産設備がフル稼働に近づいています。そのため、年間2,000トンの水溶性反応染料の生産設備を導入し、2006年内に稼働させる計画です。今回増強する反応染料は、主に木綿に使用されるもので、商品名は「カヤシオン」。増強する反応染料の半分は中国国内で販売し、残りを日本や他の国に販売していく予定です。

### ■火薬事業

爆薬、黒色火薬、火工品などの製造・販売を行っています。

#### 主要製品

- ダイナマイト
- 含水爆薬
- ANFO爆薬
- 黒色火薬
- 電気雷管

